

【リデュース】(軽量化・薄肉化)

① 一本当たりの重量変化

2022年実績は、基準年(2004年)対比で1本当たりの加重平均重量は2.5%の軽量化が図られた。

1本当たりの単純平均重量は、基準年(2004年)の192.3gに対し、2022年実績は179.5gと6.7%(12.8g/本)の軽量化が図られたが、これにはびん容量構成比の変化が含まれているため、その要素を緩和した加重平均の軽量化率は2.5%(4.8g/本)の軽量化となった。【表1参照】

残りの4.2%(8.0g/本)はびん容量構成比の変化によるものである。

なお、基準年(2004年)対比での軽量化による資源節約量は、2006年～2022年の17年間で、331,445トン(100mlドリンク剤びん換算 31億5,062万本)となった。

【表1】1本当たりの平均重量推移

	2004年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
	H16	H30	H31	R2	R3	R4
生産本数(千本)	7,262,950	6,107,220	5,721,682	5,234,580	5,392,241	5,192,766
生産重量(トン)	1,396,582	1,067,713	992,492	885,457	930,187	932,266
単純平均重量(g/本)	192.3	174.8	173.5	169.2	172.5	179.5
単純平均軽量化指標	100.0	90.9	90.2	88.0	89.7	93.3
加重平均軽量化率指数	100.0	98.8	98.3	97.8	98.1	97.5
軽量化率(加重平均)	—	▲1.2%	▲1.7%	▲2.2%	▲1.9%	▲2.5%
軽量化による累計資源節約量(トン)	—	252,442	269,606	289,525	307,540	331,445

② 軽量化実績

2022年に新たに軽量化された商品は、4品種9品目であり、軽量化重量は156トンであった。

2006年から2022年までに軽量化された商品は、11品種290品目となった。【表2参照】

なお、軽量化実績の捉え方は、前年と同容量で軽量化された品目について限定しており、容量変更が伴う場合や、新製品の軽量びんは対象外としている。

【表2】2006年から2022年までに軽量化された品目

品 種	のべ 品目数(290品目)
小びんドリンク	小びんドリンク(9品目)
薬びん	細口(2品目)、広口(2品目)
食料びん	コーヒー(17品目)、ジャム(14品目)、粉末クリーム(2品目)、蜂蜜(1品目)、食用油(6品目)、食品(8品目)、のり(1品目)
調味料びん	辛子(1品目)、たれ(7品目)、酢(13品目)、ソース(2品目)、新みりん(3品目)、醤油(4品目)、つゆ(10品目)、調味料(18品目)、ドレッシング(13品目)、ケチャップ(1品目)
牛乳びん	牛乳(5品目)
清酒びん	清酒中小(42品目)
ビールびん	ビール(14品目)
ウイスキーびん	ウイスキー(5品目)
焼酎びん	焼酎(24品目)
その他洋雑酒びん	薬味酒(1品目)、ワイン(25品目)、その他(16品目)
飲料びん	飲料ドリンク(8品目)、飲料水(2品目)、炭酸(3品目)、ジュース(6品目)、ラムネ(2品目)、シロップ(1品目)、乳酸(1品目)